

廿日市市障害者施設で起こった虐待事件についての声明

—障害児・者の虐待の根絶を願って—

令和4年1月27日、廿日市市の重症心身障害者の入所施設で、看護師7名が入所者12名に対してわいせつな発言をしたり、嘔吐した入所者を強く叱ったりするなどの虐待が繰り返されたと報道がありました。これは、高い専門性と職業倫理を有するはずの看護師がこのような虐待事件を起こしたとすれば、決して許されるものではありません。

被害に遭われた利用者の不安や恐怖を思うと、私たち知的・発達障害児者の家族としては悲しく、辛い気持ちでいっぱいです。

私たち家族は、障害があっても懸命に生きる姿から、そして時にそのやさしさや思いやりや笑顔からたくさんの幸せをもらっています。人は障害者である前に一人の人間であり一つの人格です。一人一人が、かけがえのない大切な存在なのです。

「障害者は、人に頼ることが多い人たち」と思われるかもしれませんが、人の手を借りずに何でも一人のできる人間などいない、という当たり前のことに目を向けてほしいと思います。誰もが、この社会で安心して安全に暮らしたいのです。

加害者である職員を解雇したとの報道ですが、加害者は、被害者の受けた傷に真摯に向き合い、被害者に対して誠意ある謝罪を求めます。また、虐待を防ぐことができなかった運営法人は、なぜ事件を防ぐことができなかったのか、運営や管理体制、支援の在り方など、真実を隠蔽することなく真実を明らかにするとともに、再発防止のための具体策を立案公表して責任を明確にしてほしいと思います。

運営法人を指導する立場にあった広島県および廿日市市の行政は、同法人への関与の在り方が適当であったか見直すとともに、事件の背景について専門家の協力も仰ぎながら真実を調べ、施設から提出された再発防止のための具体策が実行されるよう、私たち広島県手をつなぐ育成会、虐待事件が生起した廿日市市にある廿日市手をつなぐ育成会は、広島県と廿日市市の行政に対し要望書を提出しました。

施設利用者の皆様、保護者・支援者の皆様にとって、安全が確保され、不安や恐怖を感じ続けることが無いよう切に願うものです。

広島県手をつなぐ育成会としましては、こうした悲惨な事件が繰り返されないよう、障害の理解・啓発活動を行い、施設が本来の機能を果たし関わる職員が健全に支援できるように、各方面と協力しつつ障害者虐待防止や障害者の権利擁護等の研修を強化してまいりたいと考えます。

令和4年2月18日

一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会
会長 金子 麻由美